

㊦ 鬼怒川緊急対策プロジェクト

受賞機関 国土交通省 関東地方整備局 下館河川事務所
茨城県、常総市、結城市、下妻市、守谷市
筑西市、つくばみらい市、八千代町

キーワード 堤防整備延長約66kmを概ね5年間の短期間に実施、ICTの積極導入、マイ・タイムライン

全建賞審査委員会の評価ポイント

平成27年9月の関東東北豪雨を受け、国・県・市が主体となった鬼怒川緊急対策プロジェクトによる治水対策。総延長約66kmを約5年と早期整備を達成している点や、ICTの積極的な導入、ストックヤードの整備、工事用道路の整備などによりハード整備を加速するとともに、マイ・タイムラインリーダーの育成や、洪水リスクが高い区間における地域一体となった共同点検、緊急排水計画の作成など、先進的な取組みを実施している点が評価された。

1. はじめに

平成27年9月9日から9月10日にかけて関東地方では、「線状降水帯」と呼ばれる積乱雲が帯状に次々と発生する状況となり、長時間にわたって強い雨が降り続き、鬼怒川石井地点上流域の流域平均3日間雨量は501mmに達し、観測史上最多雨量を更新した。

これにより、鬼怒川では常総市三坂町地先の堤防約200mが決壊、7箇所の溢水及び19箇所の漏水等の氾濫により、常総市の面積の約1/3に相当する約40km²が浸水した。

鬼怒川緊急対策プロジェクトは、水防災意識社会の再構築を目指し、国・茨城県・常総市など7市町が主体となったハード、ソフト対策を一体化した緊急的な治水対策として全国で初めて実施したものである。

2. 事業の概要

本プロジェクトのハード対策としては、決壊した堤防の復旧を始め、漏水が発生した堤防の対策並びに再度災害防止を図ることを目的に堤防整備（かさ上げ・拡幅）延長約66kmや河道掘削約128万m³を概ね5年間の短期間に実施した。

ソフト対策としては、「大規模氾濫に関する減災対策協議会」を設立し、①逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的



事業により整備された鬼怒川の堤防

確な避難行動のための取組、②洪水氾濫による被害の軽減、避難時間を確保のための水防活動の取組、③一刻も早い生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための排水活動の取組を3本の柱として取組を始めた。具体的には、被災の翌年から、水防団や地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検や大規模水害を想定した広域避難計画・緊急排水計画（案）の策定を実施した。

3. 事業の成果

締固めの管理、法面整形の自動化などICT（情報化施工）の積極導入（ICT導入後の約87%の工事で活用）、7箇所のストックヤード整備等による通年の土砂受入れの実現といった工夫により鬼怒川緊急対策プロジェクトのハード対策は、令和3年9月15日に完了させることが出来た。

鬼怒川・小貝川大規模氾濫に関する減災対策協議会での取組により、全国初の「みんなでタイムラインプロジェクト」を始動し、住民一人ひとりの家族構成や生活環境に合わせて、自分自身の防災行動計画である「マイ・タイムライン」、子供向けマイタイムラインツール「逃げキッド」を作成し、普及や地域の防災・減災活動を根付かせた。

時間	国	市	住民等
3日前			テレビの天気予報を注意して見る。 ハザードマップで避難所を確認。 非常持ち出し袋を準備する。 足りないものを買うに行く。 川の水位をインターネットで確認
洪水予報	高齢者等	避難	おじいちゃんと一緒に早めに避難開始
洪水予報	避難指示		避難所に避難完了
氾濫発生			

マイ・タイムラインと子供向けツール「逃げキッド」

4. おわりに

本プロジェクトは鬼怒川下流域での取組だが、本取組が全国的に広がり、施設の能力を上回る洪水等による氾濫が発生することを前提として、社会全体でこれに備える「水防災意識社会」の再構築につながる事を期待する。

賛助会員 (株)大林組、鹿島建設(株)、大成建設(株)、(株)フジタ、(株)ユーディケー、若築建設(株)、川崎地質(株)、(株)建設技術研究所、(株)東京建設コンサルタント、パシフィックコンサルタンツ(株)